

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・著名	号数	備考
平家女護島 [明治19・3市村座]	筋書			歌舞伎新報	第六百四十・六百四	明治19年3月 歌舞伎新報社
平家女護島 [明治19・3市村座]	劇評	八一連 染花堂 高須高燕		歌舞伎新報	第六百四十七号	明治19年4月 歌舞伎新報社
平家女護島 [明治19・3市村座]	劇評	六二連 染花堂 高須高燕		『六二連 俳優評判記 歌舞伎 新報編 上』		平成18年6月 日本芸術文化振興会 法月敏彦／校訂 ※歌舞伎資料選書・10
浅草座評判 [明治26・10浅草座]	劇評	六二連 高須高燕		歌舞伎新報	第千五百二十号	明治26年11月 歌舞伎新報社
浅草座評判 [明治26・10浅草座]	劇評	六二連 高須高燕		『六二連 俳優評判記 歌舞伎 新報編 下』		平成19年3月 日本芸術文化振興会 法月敏彦／校訂 ※歌舞伎資料選書・10
「女護島」の俊寛の型	型	《7》市川団蔵		歌舞伎（第一次）	第91号	明治40年11月 歌舞伎発行所
中座「俊寛」の略型及評 [明治40・10大阪中座]	劇評		俊寛（《7》団蔵）	歌舞伎（第一次）	第91号	明治40年11月 歌舞伎発行所
市川団蔵の当り芸 島の俊寛の型	型	林翠浪／編	《7》市川団蔵	演芸画報	明治43・8	演芸画報社
市川団蔵の当り芸 島の俊寛の型	型	林翠浪／編	《7》市川団蔵	『名優当り芸 芝居の型』		明治44年1月 磯部甲陽堂
平家女護島 [大正5・7歌舞伎座]	見たまま	黒面郎	俊寛（《2》段四郎）	演芸画報	大正5・8	演芸倶楽部
歌舞伎座の出し物に就き	鑑賞	松田竹の島人		演芸画報	大正5・8	演芸倶楽部
歌舞伎座七月興行 [大正5・7歌舞伎座]	劇評	鬼太郎		新演芸	大正5・8	玄文社
瀬尾は白髪燕手	鑑賞	杉賈阿弥		演芸画報	大正5・11	演芸倶楽部
阪神の三座 [大正7・1兵庫神戸中央劇場]	劇評	三宅周太郎		演芸画報	大正7・2	演芸倶楽部
阪神の三座 [大正7・1兵庫神戸中央劇場]	劇評	三宅周太郎		『日本演劇考察』		昭和23年5月 富山房
芝居の歌「俊寛」	鑑賞	吉井勇		新演芸	大正10・4	玄文社
初役ものがたり 俊寛について	芸談		《1》中村鴈治郎	演芸画報	大正10・11	演芸倶楽部
初役ものがたり 敵役〔瀬尾〕	芸談		《1》中村魁車	演芸画報	大正10・11	演芸倶楽部
初役ものがたり お復習〔千鳥〕	芸談		《3》中村雀右衛門	演芸画報	大正10・11	演芸倶楽部
初役ものがたり 俊寛 [大正10・10大阪中座]	劇評	遠杉双林		演芸画報	大正10・12	演芸画報社
「平家女護島」に就いて	芸談		《1》中村吉右衛門	演芸画報	大正11・11	演芸倶楽部
新富帝劇の近松記念興行 [大正11・10新富座]	劇評	三田村鳶魚		演芸画報	大正11・11	演芸倶楽部
俊寛の怒る前後	芸談		《1》中村吉右衛門	新演芸	大正11・11	玄文社

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・著名	号数	備考
十月の新富座を見て [大正11・10新富座]	劇評	木村荘八		新演芸	大正11・11	玄文社
俊寛遺跡考	研究	本田恒三		中央史壇	第12巻12号	大正15年2月 国史講習会
俊寛僧都	研究	小酒井儀三		史蹟と古美術	第4巻第5号	昭和5年5月 林与三郎
九月芝居見物講話 [昭和6・9歌舞伎座]	型	川尻清潭	俊寛（《1》吉右衛門）	演芸画報	昭和6・9	演芸画報社
俊寛（能と歌舞伎の両面から見て）	鑑賞	西川許一		演芸画報	昭和6・10	演芸画報社
吉右衛門の俊寛 [昭和6・9歌舞伎座]	劇評	森ほのほ		舞台	昭和6・10	武蔵野書院
歌舞伎座の俊寛と五右衛門 [昭和6・9歌舞伎座]	演出	岡鬼太郎	俊寛（《1》吉右衛門）	『鬼言冗語』		昭和10年4月 岡倉書房 昭和6年9月歌舞伎座初演
淋しい古典劇 [昭和6・9歌舞伎座]	劇評	伊原青々園		『伊原青々園集』		昭和16年12月 坂上書院
歌舞伎座の歌舞伎劇 [昭和6・9歌舞伎座]	劇評	岡鬼太郎		『歌舞伎と文楽』		昭和18年5月 三田文学出版部
俊寛物の検討	研究	宮本隆運		歴史と国文学	第7巻第5・6号	昭和7年11～12月 太洋社
俊寛	芸談	鴻池幸武／編	吉田栄三／述	『吉田栄三自伝』		昭和8年11月 相模書房
俊寛	芸談	鴻池幸武／編	吉田栄三／述	『吉田栄三自伝』		昭和23年5月 和敬書店
京都顔見世評判記 [昭和9・12京都南座]	劇評	高谷伸		演芸画報	昭和10・1	演芸画報社
俊寛	解説	鷲尾順敬		『類聚伝記大日本史』	第七巻 僧侶篇	昭和10年3月 雄山閣
無線電話〈16〉	演出	花水庵		演芸画報	昭和10・6	演芸画報社
明治座の吉右衛門一座 [昭和10・5明治座]	劇評	渥美清太郎		演芸画報	昭和10・6	演芸画報社
俊寛	芸談	《2》市川猿之助／編		『猿之助随筆』		昭和11年11月 日本書荘
俊寛	芸談	仁村美津夫／監修	《2》市川猿之助／編	『猿翁』		昭和39年6月 東京書房
豪華版の歌舞伎座を覗いて [昭和12・4歌舞伎座]	劇評	水坂洋子		演芸画報	昭和12・5	演芸画報社
木挽町の山椒の木 [昭和12・4歌舞伎座]	劇評	石井源一郎		舞台	昭和12・5	舞台社
俊寛・淀君・暫	鑑賞	大橋孝一郎		道頓堀	昭和12・5	道頓堀編集部
歌右衛門追善の舞台から [昭和12・4大阪大阪歌舞伎座]	劇評	姉小路孝		道頓堀	昭和12・6	道頓堀編集部
烏鷺覚え東劇評判記 [昭和13・8東京劇場]	劇評	白石靖		演芸画報	昭和13・9	演芸画報社
青年歌舞伎 [昭和13・8東京劇場]	劇評	小林宗吾		舞台	昭和13・9	舞台社
冥府演劇通話〈六〉	解説	草の屋主人		演芸画報	昭和14・9	演芸画報社
国際劇場八百蔵の俊寛 [昭和14・8国際劇場]	劇評	足立直郎		演芸画報	昭和14・9	演芸画報社

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・著名	号数	備考
国際劇場八百蔵の俊寛 [昭和14・8国際劇場]	劇評	足立直郎		『歌舞伎への情熱』		昭和31年6月 高風館
八百蔵の俊寛 [昭和14・8国際劇場]	劇評	武智鉄二		『かりの翅』		昭和16年8月 千歳書房
八百蔵の俊寛 [昭和14・8国際劇場]	劇評	武智鉄二		『定本武智歌舞伎 武智鉄二全集』	第2巻	昭和54年3月 三一書房
有王と俊寛僧都	研究	柳田国男		文学	第8巻第1号	昭和15年1月 岩波書店
有王と俊寛僧都	研究	柳田国男		『定本柳田国男集』	第7巻	昭和37年11月 筑摩書房
中座の花形歌舞伎 [昭和16・8大阪中座]	劇評	高谷伸		演芸画報	昭和16・9	演芸画報社
平家女護島	解説	黒木勘蔵		『近松門左衛門』		昭和17年1月 大東出版社
謡曲俊寛と平家女護島	鑑賞	森ほのほ		浄瑠璃雑誌	第410号	昭和17年6月 浄瑠璃雑誌社
流人俊寛の夫婦愛 平家女護島から	研究	木谷蓬吟		『私の近松研究』		昭和17年7月 全国書房
晩年時代 俊寛・古靱のを聞いて	芸談	河竹繁俊／校註	《4》市川九蔵	『七世市川団蔵』		昭和17年10月 石原求竜堂
東京劇場の古典劇 [昭和17・10東京劇場]	劇評	杵屋利根		演芸画報	昭和17・11	演芸画報社
歌舞伎座の三月 [昭和18・3歌舞伎座]	劇評	本山荻舟		演芸画報	昭和18・4	演芸画報社
有王	研究	平林治徳		国文学 解釈と鑑賞	昭和18・10	至文堂
僧都死去	研究	平林治徳		国文学 解釈と鑑賞	昭和18・11	至文堂
近松の浄るり	研究	石割松太郎		『劇談抄』		昭和19年8月 大淵善吉
十一月の関西劇信 [昭和19・11京都南座]	劇評	山口廣一		演劇界	昭和19・12	日本演劇社
戯曲物語 平家女護島	解説	春海暢子		演劇界	昭和21・11、12合併	日本演劇社
芸の有為天変相 [昭和21・10東京劇場]	劇評	折口信夫		『折口信夫全集』	第18巻	昭和30年7月 中央公論社
舞台鑑賞『平家女護島』	鑑賞	本間久雄		『歌舞伎 研究と鑑賞』		昭和22年12月 天絃社
人形と歌舞伎との「俊寛」	鑑賞	三宅周太郎		『日本演劇考察』		昭和23年5月 富山房
平家女護島	鑑賞	戸板康二		『丸本歌舞伎』		昭和24年3月 和敬書店
平家女護島（俊寛）	解説	堂本寒星		『歌舞伎百趣』		昭和24年7月 河原書店 作・初演・梗概・解説
不振続ける新作 [昭和24・11大阪大阪歌舞伎座]	劇評	井上甚之助		幕間	昭和24・12	和敬書店
痴呆たれ歌舞伎 [昭和25・5大阪四ツ橋文楽座]	劇評	山口廣一		幕間	昭和25・6	和敬書店
有王島下り	解説	佐々木八郎		『平家物語講説』		昭和25年10月 早稲田大学出版部

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・著名	号数	備考
武智歌舞伎と山城浄瑠璃 [昭和26・3名古屋御園座]	劇評	木村菊太郎		幕間	昭和26・6	和敬書店
俊寛のこと	芸談	《1》中村吉右衛門		『吉右衛門自伝』		昭和26年7月 啓明社
平家女護島	鑑賞	渥美清太郎		演劇界	昭和27・11	演劇新社
「俊寛」その他 [昭和27・11歌舞伎座]	劇評	草壁知止子		演劇界	昭和27・12	演劇出版社
歌舞伎座低調 [昭和27・11歌舞伎座]	劇評	阿部優蔵		歌舞伎評論	昭和27・12	歌舞伎評論社
俊寛を中心に [昭和27・11歌舞伎座]	劇評	大木豊		劇評	昭和27・12	歌舞伎堂第一書店
お早のことなど〔丹左衛門〕	芸談		《3》中村時蔵	幕間	昭和27・12	和敬書店
歌舞伎座の近松物二つ [昭和27・11歌舞伎座]	劇評	三宅周太郎		幕間	昭和27・12	和敬書店
新春随筆 神品の「俊寛」 [昭和27・11歌舞伎座]	劇評	河竹繁俊		演劇界	昭和28・1	演劇出版社
三幕目の丑松 [昭和29・6歌舞伎座]	劇評	戸板康二		演劇界	昭和29・7	演劇出版社
俊寛について	芸談		《2》市川猿之助	劇評	昭和29・7	歌舞伎堂第一書店
舞台鑑賞 俊寛	鑑賞	松井敏明		劇評	昭和29・7	歌舞伎堂第一書店
俊寛その他 [昭和29・6歌舞伎座]	劇評	三宅三郎		劇評	昭和29・7	歌舞伎堂第一書店
「暗闇の丑松」と「ファッション源氏」 [昭和29・6歌舞伎座]	劇評	郡司正勝		演芸評論	昭和29・7	演劇評論社
澤瀉屋系の俊寛	芸談		《2》市川猿之助	幕間	昭和29・7	和敬書店
澤瀉屋系の俊寛	芸談	仁村美津夫／監修	《2》市川猿之助／編	『猿翁』		昭和39年6月 東京書房
「俊寛」と「南蛮寺門前」 [昭和29・6歌舞伎座]	劇評	三宅周太郎		幕間	昭和29・7	和敬書店
島の俊寛 [昭和29・6歌舞伎座]	型 劇評	三宅三郎		『かぶきを見る眼』		昭和31年9月 新樹社
新演出の「男達ばやり」 [昭和29・7大阪中座]	劇評	沼艸雨		演劇界	昭和29・8	演劇出版社
七月の大阪中座 [昭和29・7大阪中座]	劇評	新橋柳一郎		劇評	昭和29・8	歌舞伎堂第一書店
直弼と俊寛	芸談		《13》片岡仁左衛門	幕間	昭和29・8	和敬書店
〔丹波少将成経〕	芸談		《2》実川延二郎	幕間	昭和29・8	和敬書店
若手が楽しい納涼歌舞伎 [昭和29・7大阪中座]	劇評	大鋸時生		幕間	昭和29・8	和敬書店
クオ・ブディス関西歌舞伎 御園座評 [昭和30・6名古屋御園座]	劇評	岩沙慎一		演劇界	昭和30・7	演劇出版社
近松劇を中心に [昭和30・6名古屋御園座]	劇評	藤野義雄		劇評	昭和30・7	「劇評」社
名古屋の関西歌舞伎 [昭和30・6名古屋御園座]	劇評	前田満穂		幕間	昭和30・7	和敬書店

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・著名	号数	備考
舞台鑑賞手引 俊寛断片	鑑賞	加賀山直三		幕間	昭和30・11	和敬書店
俊寛	芸談		《8》松本幸四郎	演劇界	昭和30・12	演劇出版社
成経	芸談		《2》実川延二郎	演劇界	昭和30・12	演劇出版社
蚤千鳥	芸談		《6》中村歌右衛門	演劇界	昭和30・12	演劇出版社
「雨だれ太鼓」の好演 [昭和30・11歌舞伎座]	劇評	竹越和夫		演劇界	昭和30・12	演劇出版社
三島歌舞伎是非 [昭和30・11歌舞伎座]	劇評	戸部銀作		劇評	昭和30・12	「劇評」社
俊寛の近代性	芸談		《8》松本幸四郎	幕間	昭和30・12	和敬書店
単身東上の重責〔丹波少将成経〕	芸談		《2》実川延二郎	幕間	昭和30・12	和敬書店
新作に賑わう芸術祭興行 [昭和30・11歌舞伎座]	劇評	浜村道哉		幕間	昭和30・12	和敬書店
研究的な「引窓」〔俊寛〕	芸談		《8》市川中車	幕間	昭和31・5	和敬書店
中車ほか中堅の進出 [昭和31・4東横ホール]	劇評	仁村美津夫		幕間	昭和31・5	和敬書店
引窓、毛谷村他 [昭和31・4東横ホール]	劇評	三宅三郎		演劇界	昭和31・5	演劇出版社
東横中年歌舞伎 [昭和31・4東横ホール]	劇評	加賀山直三		劇評	昭和31・5	「劇評」社
平家・謡曲・近松の詞章における漢詩文	研究	佐成謙太郎		国文学 解釈と鑑賞	昭和31・6	至文堂
前進座歌舞伎の創造 [昭和31・6大阪大阪歌舞伎座]	劇評	沼艸雨		演劇界	昭和31・7	演劇出版社
近松が描いた俊寛について	研究	向井芳樹		国文論叢	5	昭和31年11月 神戸大学文学部国語国文学会
近松が描いた俊寛について	研究	向井芳樹		『近松の方法』		昭和51年9月 桜楓社
前進座の初日 [昭和31・11俳優座劇場]	劇評	利倉幸一		演劇界	昭和31・12	演劇出版社
「俊寛」の演出	演出	川尻清潭		『演技の伝承』		昭和31年12月 演劇出版社
平家女護島 [昭和31・11俳優座劇場]	劇評	廣末保		国文学 解釈と鑑賞	昭和32・1	至文堂
協同研究 平家女護島（俊寛）	鑑賞	《2》中村歌右衛門 浜村米蔵 宮川雅夫		演劇界	昭和32・1	演劇出版社
ロマンの世界 時代物の展望	研究	松崎仁		『角川古典鑑賞講座』	第20巻 近松	昭和32年9月 角川書店
平家女護島 俊寛	鑑賞	藤野義雄		幕間	昭和32・12	和敬書店
猿之助の持味で持つ [昭和33・6新宿松竹座]	劇評	戸部銀作		演劇界	昭和33・7	演劇出版社
生かされた猿之助の持味 [昭和33・6新宿松竹座]	劇評	大木豊		劇評	昭和33・7	「劇評」社
久し振の猿之助劇団公演 [昭和33・6新宿松竹座]	劇評	加賀山直三		幕間	昭和33・7	和敬書店

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・著名	号数	備考
有王が島下り	研究	安井憲三		国文学 解釈と教材の研究	昭和33・10	学燈社
平家物語演劇化の歴史	研究	郡司正勝		国文学 解釈と教材の研究	昭和33・10	学燈社
俊寛	研究	小林智昭		国文学 解釈と教材の研究	昭和33・10	学燈社
平家女護島	解説	吉永孝雄／解説 三村幸一／写真		『アサヒ写真ブック』	第88巻 近松の世界	昭和34年2月 朝日新聞社
貴重な実験作「俊寛」 [昭和34・7明治座]	劇評	戸部銀作		演劇界	昭和34・8	演劇出版社
大劇場再復帰第二回目の前進座 [昭和34・7明治座]	劇評	加賀山直三		劇評	昭和34・8	「劇評」社
俊寛	鑑賞	大岩精二		劇評	昭和34・10	「劇評」社
三座の古典・準古典 [昭和34・9歌舞伎座]	劇評	加賀山直三		劇評	昭和34・10	「劇評」社
「俊寛」余談	芸談		《8》松本幸四郎	幕間	昭和34・10	和敬書店
佐吉の性根〔丹左衛門〕	芸談		《14》守田勘弥	幕間	昭和34・10	和敬書店
初秋大歌舞伎 [昭和34・9歌舞伎座]	劇評	三宅三郎		幕間	昭和34・10	和敬書店
翫右衛門と幸四郎の俊寛	鑑賞	堂本正樹		『古典劇との対決』		昭和34年12月 能楽書林
幸四郎の好演が収穫 [昭和34・12京都南座]	劇評	大鋸時生		演劇界	昭和35・1	演劇出版社
京の顔見世 [昭和34・12京都南座]	劇評	井上甚之助		幕間	昭和35・1	和敬書店
古典歌舞伎創造の方法 俊寛復活の二つの方向	鑑賞	富田鉄之助		伝統演劇	14号	昭和35年6月 伝統演劇研究会
平家女護島 (鬼界が島の場)	現代語訳	武智鉄二		『日本文学全集』	第十巻 近松名作集	昭和36年3月 河出書房新社
平家女護島 (鬼界が島の場)	現代語訳	武智鉄二		『日本の古典』	19 近松門左衛門	昭和47年3月 河出書房新社 解説「近松の『反悲劇』」(山崎正和)、 解題(今尾哲也)、年譜(河竹登志夫)、 注釈(池田弥三郎)を付す。
平家女護島 (鬼界が島の場)	現代語訳	武智鉄二		『日本古典文庫』	18 近松名作集	昭和63年4月 河出書房新社 新装版 注釈(池田弥三郎)、年譜(河竹登志夫)、 解説(山崎正和)を付す。
平家女護島	解説	廣末保		『演劇百科大事典』	第五巻	昭和36年9月 平凡社 早稲田大学演劇博物館／編
「平家女護島」の千鳥横死・復活上演について	演出	武智鉄二		歌舞伎座筋書	昭和38・2	歌舞伎座宣伝部 四段目の復活上演について。
平家女護島 [昭和38・2歌舞伎座]	記録	服部幸雄		演劇界	昭和38・3	演劇出版社

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・著名	号数	備考
「徳川家康」と「平家女護島」 [昭和38・2歌舞伎座]	劇評	郡司正勝		演劇界	昭和38・3	演劇出版社
「平家女護島」の構成について	鑑賞	松井静夫		語文	15	昭和38年6月 日本大学国文学会
「平家女護島」の構成について	鑑賞	松井静夫		『近松』		昭和51年3月 有精堂 日本文学研究資料刊行会／編
仁左衛門歌舞伎意義と成果と [昭和38・7大阪道頓堀文楽座]	劇評	権藤芳一		演劇界	昭和38・8	演劇出版社
歌舞伎座の初春芝居 [昭和39・1歌舞伎座]	劇評	加賀山直三		演劇界	昭和39・2	演劇出版社
でんでん虫夜話 六代目さんと播磨屋さん	芸談	《8》竹本綱大夫	俊寛（《1》吉右衛門）	『でんでん虫』		昭和39年6月 布井書房 中村吉右衛門の俊寛
俊寛	演出	仁村美津夫／監修	《2》市川猿之助／編	『猿翁』		昭和39年6月 東京書房
俊寛	鑑賞	松井敏明		演劇界	昭和39・12	演劇出版社
十本立て十三時間興行 [昭和39・12京都南座]	劇評	権藤芳一		演劇界	昭和40・1	演劇出版社
国立劇場上演狂言風俗備要抄 「平家女護島」関係	研究	長田午狂／編		国立劇場上演狂言風俗備要抄 「平家女護島」関係		昭和42年4月 国立劇場芸能調査室 ※語彙解釈一覧
演出のことば 「平家女護島」の上演に当って	演出	戸部銀作		国立劇場第五回歌舞伎公演解説書	昭和42・4	国立劇場事業部
近松と現代	鑑賞	山本修二		国立劇場第五回歌舞伎公演解説書	昭和42・4	国立劇場事業部
近松の時代物	鑑賞	廣末保		国立劇場第五回歌舞伎公演解説書	昭和42・4	国立劇場事業部
あづまや・千鳥・おさい	鑑賞	浜村米蔵		国立劇場第五回歌舞伎公演解説書	昭和42・4	国立劇場事業部
資料展示室	鑑賞			国立劇場第五回歌舞伎公演解説書	昭和42・4	国立劇場事業部
文楽の俊寛と鑓の権三	鑑賞	吉永孝雄		国立劇場第五回歌舞伎公演解説書	昭和42・4	国立劇場事業部
対談 私たちの近松	鑑賞	津村秀夫 成沢昌茂		国立劇場第五回歌舞伎公演解説書	昭和42・4	国立劇場事業部
近松物の味わい方	鑑賞	内山美樹子		演劇界	昭和42・4	演劇出版社 特集「初等近松読本」
近松作品案内 平家女護島	解説			演劇界	昭和42・4	演劇出版社 特集「初等近松読本」
二つの近松作品 [昭和42・4国立劇場]	劇評	桑原経重		演劇界	昭和42・5	演劇出版社
鬼界が島悲話	鑑賞	山田実／編		『伝説と奇談』	第七集 九州篇	昭和42年11月 山田書院
『平家女護島』	研究	重友毅		広島女学院大学論集	第18集	昭和43年12月 広島女学院大学
『平家女護島』	研究	重友毅		『重友毅著作集』	第三巻 近松の研究	昭和47年4月 文理書院
俊寛	鑑賞	河竹登志夫／文 吉田千秋／写真		『歌舞伎のいのち』		昭和44年3月 淡交社

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・著名	号数	備考
俊寛物三題	研究	安藤常次郎		『軍記物とその周辺 佐々木八郎博士古稀記念論文集』		昭和44年3月 早稲田大学出版部
古典鑑賞 俊寛	鑑賞	権藤芳一		演劇界	昭和44・4	演劇出版社
大阪の顔見世 〔昭和44・5大阪大阪新歌舞伎座〕	劇評	沼艸雨		演劇界	昭和44・6	演劇出版社
前進座の〈俊寛〉と〈芝浜〉 〔昭和44・5日比谷公会堂〕	劇評	岡田聡		演劇界	昭和44・6	演劇出版社
芸談 十 雪点前と唐装束〔俊寛〕	芸談	《8》坂東三津五郎		『名作歌舞伎全集』月報	第一巻	昭和44年10月 東京創元新社
俊寛 平家女護島	芸談	《2》中村翫右衛門		『芸話おもちゃ箱』		昭和45年7月 朝日新聞社
近松作品の事実と虚構 平家女護島	鑑賞	松井静夫		国文学 解釈と鑑賞	昭和45・10	至文堂 「現代に生きる近松の文学と舞台」
歌舞伎鑑賞のために 俊寛を例として	鑑賞	河竹登志夫		国文学 解釈と鑑賞	昭和45・10	至文堂 「現代に生きる近松の文学と舞台」
平家女護島	研究	森修		国文学 解釈と教材の研究	昭和46・9	学燈社
総花的顔見世 〔昭和46・11歌舞伎座〕	劇評	河竹登志夫		演劇界	昭和46・12	演劇出版社
平家女護島	研究	重友毅		『近松の研究』		昭和47年4月 文理書院
「平家女護島」細見	鑑賞	小池章太郎		季刊雑誌歌舞伎	昭和47・4	松竹株式会社演劇部 「近松門左衛門の作品」
平家女護島〔千鳥〕	芸談	《5》河原崎國太郎		『女形芸談』		昭和47年12月 未来社
前進座の近松劇 〔昭和48・6東横劇場〕	劇評	伊藤靖氏		演劇界	昭和48・7	演劇出版社
私の古典鑑賞 俊寛	鑑賞	渡辺保		演劇界	昭和48・7	演劇出版社
人間の孤独『平家女護島』（俊寛）	鑑賞	渡辺保		『歌舞伎という宇宙私の古典鑑賞』		平成3年4月 筑摩書房 『演劇界』掲載分を転載
時代・世話・踊りの猿之助 〔昭和48・7歌舞伎座〕	劇評	戸部銀作		演劇界	昭和48・7	演劇出版社
「平家女護島」三段目考 「鎌倉尼将軍」との関連を中心に	研究	阪口弘之		人文研究	第25巻7号	昭和48年12月 大阪市立大学大学院文学研究科
その二・「俊寛」演技ノート／その三・「俊寛」上演覚えがき	芸談 演出	《2》中村翫右衛門		『歌舞伎の演技』		昭和49年6月 未来社
「女護の島」について	研究	坂井利三郎		『日本文学の研究 重友毅博士 頌寿記念論文集』		昭和49年7月 文理書院
流動の美	鑑賞	戸板康二／文 吉田千秋／写真		『カラー歌舞伎の魅力』		昭和48年12月 淡交社
千鳥	芸談	《5》河原崎國太郎		『女形百役』		昭和50年2月 矢来書院
起伏のない舞台 〔昭和50・5歌舞伎座〕	劇評	戸部銀作		演劇界	昭和50・6	演劇出版社
「平家女護島」の六波羅	解説	京都新聞社／編		『名作散歩 歌舞伎と京都』		昭和50年9月 京都新聞社
十回目を迎えた歌舞伎教室 〔昭和51・7国立劇場〕	劇評	景山正隆		演劇界	昭和51・8	演劇出版社
俊寛の遺跡 二つの硫黄島	研究	向井芳樹		手塚山学院大学研究論集	11	昭和51年12月 手塚山学院大学研究論集編集委員会

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・著名	号数	備考
若さへの移行 [昭和51・12京都南座]	劇評	沼艸雨		演劇界	昭和52・1	演劇出版社
俊寛の文芸	研究	諏訪春雄		月刊考古学ジャーナル	昭和52・6	ニュー・サイエンス社
「俊寛」の残念点 [昭和52・9歌舞伎座]	劇評	山口廣一		演劇界	昭和52・10	演劇出版社
現代と歌舞伎	評論	富田鉄之助		『錦を着た乞食人 被差別歌舞伎論』		昭和53年2月 田畑書店
「熊野御前平紋日」考 二つ目を中心に	研究	河合眞澄		近世文芸	29号	昭和53年6月 日本近世文学会
千鳥の扱帯	演出	渡辺保		『女形百姿』		昭和53年9月 青蛙房
俊寛	研究	諏訪春雄		『歌舞伎の伝承』		昭和54年4月 千人社
各人各様な特色 [昭和54・4歌舞伎座]	劇評	杉本嘉代子		演劇界	昭和54・5	演劇出版社
鬼界島流人譚の成立 俊寛有王説話をめぐって	研究	谷口広之		同志社国文学	15	昭和55年1月 同志社大学国文学会
平家女護島	研究	藤野義雄		『近松と最盛期の浄瑠璃』		昭和55年4月 桜楓社
平家女護島	研究	森山重雄		『近松の天皇劇』		昭和56年1月 三一書房
感慨ぶかい記念公演 [昭和55・12歌舞伎座]	劇評	水落潔		演劇界	昭和56・1	演劇出版社
「俊寛」〔丹左衛門〕	芸談	《5》嵐芳三郎		『五代目 芳三郎芸話』		昭和56年1月 新日本出版社
十五年ぶりの初芝居 [昭和56・1大阪中座]	劇評	前田泰司		演劇界	昭和56・2	演劇出版社
猿之助の長所と短所 [昭和56・7歌舞伎座]	劇評	戸部銀作		演劇界	昭和56・8	演劇出版社
「平家女護島」に描かれた恋愛	研究	森田喜郎		文学研究	第54号	昭和56年12月 日本文学研究会
「平家女護島」に描かれた恋愛	研究	森田喜郎		『日本近世文学論』		昭和62年3月 和泉書院
『平家女護島』について	研究	千葉篤		文学研究	第55号	昭和57年6月 日本文学研究会
平家女護島	解説	渡辺保		『歌舞伎手帖』		昭和57年7月 駈々堂出版
時を得て [昭和57・7国立劇場]	劇評	藤巻透		演劇界	昭和57・8	演劇出版社
猿之助歌舞伎の魅力 [昭和57・9京都南座]	劇評	藤井康雄		演劇界	昭和57・10	演劇出版社
源平世界の三本立 [昭和57・10歌舞伎座]	劇評	水落潔		演劇界	昭和57・11	演劇出版社
平家女護島	鑑賞	上総英郎		演劇界	昭和58・1	演劇出版社
平家女護島	鑑賞	上総英郎		『歌舞伎鑑賞案内時代浄瑠璃の世界』		平成3年9月 朝文社
丈高き自己犠牲 [昭和58・6大阪中座]	劇評	植田正弘		演劇界	昭和58・7	演劇出版社

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・著名	号数	備考
平家女護島	解説	向井芳樹		『歌舞伎事典』 『〈新版〉歌舞伎事典』		昭和58年11月 平凡社 服部幸雄・富田鉄之助・廣末保／編 平成23年3月
平家女護島	解説	向井芳樹		『歌舞伎事典』 『〈新版〉歌舞伎事典』		昭和58年11月 平凡社 服部幸雄・富田鉄之助・廣末保／編 平成23年3月
源平合戦物	解説	原道生		『歌舞伎事典』 『〈新版〉歌舞伎事典』		昭和58年11月 平凡社 服部幸雄・富田鉄之助・廣末保／編 平成23年3月
平家女護島	解説	鳥居フミ子		研究資料日本古典文学	10 劇文学	昭和58年12月 明治書院 概括、成立および概観、梗概、意義、諸 本・影印・翻刻、参考文献を付す。
「熊野御前平紋日」	脚本	歌舞伎台帳研究会／編		『歌舞伎台帳集成』	第四巻	昭和59年2月 勉誠社 番付、絵尽くし、解題を付す。
二つの近松作品 [昭和59・4歌舞伎座]	劇評	水落潔		演劇界	昭和59・5	演劇出版社
〈語り〉と〈ドラマ〉 近松の演劇言語	研究	内山美樹子		国文学 解釈と教材の研究	昭和60・2	学燈社 「近松・語りの世界劇場」
平家女護島 東屋・常盤・千鳥をめぐって	研究	荒木繁		国文学 解釈と教材の研究	昭和60・2	学燈社 「近松・語りの世界劇場」
歌舞伎の義太夫節 「平家女護島」の場合	研究	景山正隆		文学論藻	第59号	昭和60年2月 東洋大学文学部国文学研究室
「平家女護島」の「蜚余波」と「蜚訛り」	研究	内山美樹子		演劇学	第26号	昭和60年3月 早稲田大学文学部演劇研究室
密度の高い「俊寛」と「船弁慶」 [昭和60・9歌舞伎座]	劇評	落合清彦		演劇界	昭和60・10	演劇出版社
義太夫節の訛り 「蜚訛り」について	研究	坂本清恵		演劇研究	第十一号	昭和61年6月 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
義太夫節の訛りとアクセント	研究	坂本清恵		『中近世声調史の研究』		平成12年2月 笠間書院 笠間叢書332、演劇研究
俊寛	芸談	水落潔／聞き手	《13》片岡仁左衛門	演劇界	昭和60・7	演劇出版社
俊寛	芸談		《13》片岡仁左衛門	『芝居譚』		平成4年10月 河出書房新社
平家女護島	解説	向井芳樹		演劇界 歌舞伎名作シリーズ1 近松門左衛門の世界	昭和61・7増刊	演劇出版社
俊寛像のデフォルメ	随想	杉本苑子		国立文楽劇場第十六回文楽公 演解説書	昭和61・10	国立文楽劇場事業課
団十郎の「俊寛」 [昭和62・6国立劇場]	劇評	ほんち・えいき		演劇界	昭和62・7	演劇出版社
私の役づくり「俊寛」 前進座劇場	芸談	金森和子	《4》 中村梅之助 《1》 山村邦次郎 《5》 嵐吉太郎	演劇界	昭和62・9	演劇出版社

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・著名	号数	備考
解釈と表現との断層 [昭和62・8前進座劇場]	劇評	水落潔		演劇界	昭和62・9	演劇出版社
第二章 伝説の人物と二枚目の巻 俊寛	解説	荒俣宏		『歌舞伎キャラクター事典』		昭和62年12月 新書館
老練の「俊寛」と若さの「助六」 [昭和63・1歌舞伎座]	劇評	志野葉太郎		演劇界	昭和63・2	演劇出版社
近松時代浄瑠璃の女性	研究	池田裕子		文学論藻	第62号（東洋大学創立100周年記念号）	昭和63年2月 東洋大学文学部国文学研究室 東洋大学国文学部紀要 第41集文学篇
自前の俊寛 [昭和63・7地方公演]	劇評	津田類		演劇界	昭和63・8	演劇出版社
俊寛	鑑賞	藤田洋／編著		『歌舞伎の名セリフ』		昭和63年11月 東洋書院
上方歌舞伎、健在 [昭和63・12京都南座]	劇評	権藤芳一		演劇界	昭和64・1	演劇出版社
平家女護島 俊寛 [昭和54・4歌舞伎座]	脚本		俊寛（《17》勘三郎）	『歌舞伎座百年記念歌舞伎名作選集（講談社カセット）』	8	昭和64年2月 講談社
俊寛の死とその伝承	研究	志村有弘		『異形の伝説 伝承文学考』		平成1年3月 国書刊行会
近松と金平歌舞伎 「平家女護島」を中心に	研究	阪口弘之		『近松全集』月報	11号	平成1年8月 岩波書店
俊寛 平家女護島 孤愁、骨をかむ望郷と絶望と	鑑賞	水落潔		『歌舞伎紳士録・江戸のシティーボーイ』		平成元年11月 鎌倉書房
俊寛	鑑賞	小池章太郎		演劇界	平成2・1	演劇出版社
「俊寛」と「道成寺」 [平成1・12歌舞伎座]	劇評	志野葉太郎		演劇界	平成2・1	演劇出版社
批評 新しい視角 十二月の二つの歌舞伎公演 [平成1・12歌舞伎座]	劇評	水落潔		歌舞伎 研究と批評	5	平成2年6月 歌舞伎学会
時代浄瑠璃「俊寛」	演出	高瀬精一郎		『近松からの出発 いま歌舞伎を考える』		平成2年1月 形象社
時代浄瑠璃「俊寛」	演出	高瀬精一郎		『近松からの出発 いま歌舞伎を考える』		平成7年5月 演劇出版社
平家をふるえあがらせた女	鑑賞	永井路子		月刊前進座	第496号	平成3年4月 前進座
「平家女護島」に女たち	鑑賞	松木新八郎		月刊前進座	第496号	平成3年4月 前進座
平家女護島〔千鳥〕	芸談	《6》嵐芳三郎		『役者と役の間 嵐芳三郎おぼえ書』		平成3年5月 東京新聞出版局
俊寛	解説 芸談	藤田洋 《2》中村吉右衛門		『NHK日本の伝統芸能 歌舞伎鑑賞入門2』		平成3年5月 日本放送出版協会
平家女護島の世界 匹夫匹婦も志をうばわず	鑑賞	荒木繁		前進座プログラム	平成3・5	前進座
思い出の舞台	芸評	松島栄一	俊寛（《3》翫右衛門）	演劇界	平成3・5	演劇出版社

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・著名	号数	備考
絶好の復活作品「平家女護島」	解説	林京平		月刊前進座	第497号	平成3年5月 前進座
放れ業の「平家女護島」全段上演	解説			月刊前進座	第498号	平成3年6月 前進座
「沼津」そして御所五郎蔵 [平成3・10名古屋御園座]	劇評	亀井五郎		演劇界	平成3・11	演劇出版社
「俊寛」研究 [平成3・10名古屋屋名古屋御園座]	劇評	安田文吉		名古屋芸能文化	1号	平成3年12月 名古屋芸能文化会
平家女護島	鑑賞	堂本正樹		演劇界	平成3・12	演劇出版社
淡泊と濃厚 [平成3・11歌舞伎座]	劇評	志野葉太郎		演劇界	平成3・12	演劇出版社
型の伝承と創造 「俊寛」創造の場から	演出	高瀬精一郎		歌舞伎 研究と批評	8	平成4年1月 歌舞伎学会
俊寛	鑑賞	福本和生		演劇界	平成4・11	演劇出版社
能と歌舞伎の「俊寛」	鑑賞	岡田聡		演劇界	平成4・11	演劇出版社
孝夫初役の「俊寛」 [平成4・10歌舞伎座]	劇評	利根川裕		演劇界	平成4・11	演劇出版社
古典劇としての歌舞伎 勘九郎の「俊寛」 [平成4・10京都南座]	劇評	権藤芳一		演劇界	平成4・11	演劇出版社
平家女護島	解説	坂本清恵		『講座元禄の文学』	第4巻 近松と元禄の 演劇	平成5年3月 勉誠社
平家女護島（俊寛）	解説	水落潔		『歌舞伎鑑賞辞典』		平成5年9月 東京堂出版
享保期の段構成の方法	研究	白方勝		『近松浄瑠璃の研究』		平成5年9月 風間書房
丸本物 平家女護島	解説	安田文吉 安田徳子		『歌舞伎のたのしみ』		平成5年11月 北白川書房
合評 新しい視角繁栄の中の矛盾 平成五年 [平成6・1歌舞伎座]	劇評	水落潔 大笹吉雄 井上伸子		歌舞伎 研究と批評	13	平成6年7月 歌舞伎学会
俊寛とお光の自己犠牲 [平成6・1歌舞伎座]	劇評	大矢芳弘		『歌舞伎リアルタイム同時代 の演劇批評』		平成16年4月 森話社
〈俊寛〉の暑い夏 '94三大伝統演劇欧州公演 [平成6・7海外公演]	劇評	織田紘二		演劇界	昭和6・9	演劇出版社
勘九郎の研究した演技に注目 [平成6・8歌舞伎座]	劇評	野村喬		演劇界	昭和6・9	演劇出版社
勘九郎の研究した演技に注目 [平成6・8歌舞伎座]	劇評	野村喬		『歌舞伎評論』		平成7年4月 リプロポート
俊寛	鑑賞	水沼一郎	俊寛（《5》勘九郎）	演劇界	平成6・9	演劇出版社
国際交流基金主催「三大伝統演劇欧州公演」 [平成6・7海外公演]	報告			国際交流	66号	平成7年1月 国際交流基金
国際交流基金主催「三大伝統演劇欧州公演」 [平成6・7海外公演]	報告			『三大伝統演劇欧州公演事業 報告書 1994』		平成7年9月 国際交流基金
俊寛点描	研究	岩崎雅彦		国立劇場第一一〇回文楽公演 解説書	平成7・2	日本芸術文化振興会
俊寛説話の流れ 「語り」と「読み」の問題	研究	田中美絵		学習院大学国語 国文学会誌	第38号	平成7年3月 学習院大学文学部国語国 文学会

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・著名	号数	備考
妻を恋う 平家女護島・俊寛	評論	服部幸雄		『歌舞伎歳時記』		平成7年7月 新潮社 新潮選書
資料展示室	鑑賞			国立劇場第一九四回歌舞伎公演解説書	平成7・10	日本芸術文化振興会
思い出の舞台	鑑賞			国立劇場第一九四回歌舞伎公演解説書	平成7・10	日本芸術文化振興会
脚本のことば 全体の調和を考えて	演出	山田庄一		国立劇場第一九四回歌舞伎公演解説書	平成7・10	日本芸術文化振興会
演出のことば 「平家女護島」通し上演の意義	演出	戸部銀作		国立劇場第一九四回歌舞伎公演解説書	平成7・10	日本芸術文化振興会
俊寛について	鑑賞	村松友視		国立劇場第一九四回歌舞伎公演解説書	平成7・10	日本芸術文化振興会
海の王者 わが清盛	鑑賞	水原紫苑		国立劇場第一九四回歌舞伎公演解説書	平成7・10	日本芸術文化振興会
蜚訛り 千鳥の魅力	鑑賞	坂本清恵		国立劇場第一九四回歌舞伎公演解説書	平成7・10	日本芸術文化振興会
近代の俊寛	鑑賞	(涼)		国立劇場第一九四回歌舞伎公演解説書	平成7・10	日本芸術文化振興会
流人の生活	鑑賞	小石房子		国立劇場第一九四回歌舞伎公演解説書	平成7・10	日本芸術文化振興会
見事な吉右衛門の「俊寛」 [平成7・10国立劇場]	劇評	野村喬		演劇界	平成7・11	演劇出版社
海女千鳥のやくわり	評論	天野道映		演劇界	平成7・11	演劇出版社
通し狂言の三者鼎立 一〇月歌舞伎座、国立劇場 三、現世の男と来世の男 [平成7・10国立劇場]	劇評	大矢芳弘		歌舞伎 研究と批評	17	平成8年6月 歌舞伎学会
現世の男と来世の男 [平成7・10国立劇場]	劇評	大矢芳弘		『歌舞伎リアルタイム同時代の演劇批評』		平成16年4月 森話社 『歌舞伎研究と批評』掲載分を転載
平家女護島	解説 鑑賞	服部幸雄 金森和子		『NHK日本の伝統芸能 歌舞伎鑑賞入門7』		平成8年4月 日本放送出版協会
歌舞伎ローマ公演観劇記 [平成8・2海外公演]	記録	横溝幸子	俊寛(《5》富十郎)	演劇界	平成8・4	演劇出版社
猿之助歌舞伎の本質提示 [平成8・6名古屋中日劇場]	劇評	安住恭子		演劇界	平成8・7	演劇出版社
平家女護島	解説	野村喬		『歌舞伎名作事典』		平成10年4月 演劇出版社 改訂新版
家の芸『俊寛』のアメリカ公演 [平成8・9海外公演]	芸談	横溝幸子	《2》中村吉右衛門	演劇界	平成8・9	演劇出版社
家の芸『俊寛』のアメリカ公演 [平成8・9海外公演]	芸談	横溝幸子	《2》中村吉右衛門	『夢を語る役者たち』		平成10年5月 演劇出版社
丸本歌舞伎三十撰 平家女護島	解説	石橋健一郎		『歌舞伎名作鑑賞 丸本歌舞伎』		平成8年10月 演劇出版社 新装改訂版
ロサンゼルス吉右衛門歌舞伎 [平成8・9海外公演]	劇評	横溝幸子		演劇界	平成8・11	演劇出版社 新聞評
「俊寛」久方ぶりの感激 [平成8・11歌舞伎座]	劇評	上総英郎		演劇界	平成8・12	演劇出版社

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・著名	号数	備考
「俊寛」久方ぶりの感激 [平成8・11歌舞伎座]	劇評	上総英郎		『歌舞伎の魅力』		平成14年6月 パピルスあい
平成八年一二月の国立劇場、歌舞伎座公演 [平成8・11歌舞伎座]	劇評	如月青子		歌舞伎 研究と批評	19	平成9年6月 歌舞伎学会
「平家女護島」論	研究	佐瀬三千夫		文京女子短期大学英語英文学 科紀要	第29号	平成8年12月 文京女子短期大学
近松と西鶴 契約・説得・宙吊り	研究	葛綿正一		沖縄国際大学日本語日本文学 研究	1-1	平成9年1月 沖縄国際大学文学部
『足摺』と『鬼界ヶ島』	芸談	嵐圭史		悲劇喜劇	第50巻1号	平成9年1月 早川書房 特集・せりふの文学性
『平家女ごの嶋』について	研究	小関智子		叢 草双紙の翻刻と研究	第19号	平成9年6月 東京学芸大学言語文学第一学科古典文学 第六研究室
拵えを感じさせぬ見事な俊寛 [平成9・12京都南座]	劇評	森西真弓		演劇界	平成10・1	演劇出版社
幸四郎の俊寛の孤独感 [平成10・6歌舞伎座]	劇評	福本和生		演劇界	平成10・7	演劇出版社
平家物語の受容 「平家物語」の近世的受容 江戸の純歌舞伎狂言を 中心に	研究	服部幸雄		『平家物語批評と文化史』		平成10年11月 汲古書院 軍記文学研究叢書7
俊寛僧都 俊寛	解説鑑賞	《2》中村吉右衛門 / 五 修 おんお健太郎 / 文		『中村吉右衛門の歌舞伎ワー ルド』		平成10年12月 小学館
幸四郎の仕事 [平成10・6歌舞伎座]	劇評	中村義裕		歌舞伎 研究と批評	22	平成10年12月 歌舞伎学会
平家女護島（俊寛）鹿ヶ谷事件	解説史実	佐藤孔亮		『歌舞伎にみる日本史』		平成11年1月 小学館
俊寛の謎	随筆	《5》中村勘九郎		『勘九郎ぶらり旅 因果はめぐ る歌舞伎の不思議』		平成11年3月 集英社 平成17年2月文庫版刊
「俊寛」像の変遷「平家物語」から能、人形浄瑠 璃、歌舞伎、倉田百三「俊寛」まで	研究	渡辺保		演劇学論集 日本演劇学会紀要	37	平成11年9月 日本演劇学会
精悍な染五郎の俊寛 [平成11・10三越劇場]	劇評	福本和生		演劇界	平成11・12	演劇出版社
大顔合わせの大舞台 [平成12・4歌舞伎座]	劇評	水落潔		演劇界	平成12・5	演劇出版社
博多座一周年 粒揃いの舞台 [平成12・6福岡博多座]	劇評	佐藤俊一郎		演劇界	平成12・7	演劇出版社
硫黄島の『俊寛』	随筆	山川静夫	俊寛（《5》勘九郎）	『歌舞伎漫筆』		平成12年10月 岩波書店 『朝日家庭便利帳暮らしの風』（朝日新 聞社）掲 載分をまとめたもの
「いま、ここ」の俊寛像 [平成12・8国立劇場]	劇評	佐藤俊一郎		演劇界	平成12・11	演劇出版社

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・著名	号数	備考
『平家女護島』の俊寛像 近松の劇空間を意識づけるもの	研究	坂本美加		文学史研究	第41号	平成12年12月 大阪市立大学国語国文研究室文学史研究会
猿之助の人生の時の時 [平成13・7歌舞伎座]	劇評	上村以和於		演劇界	平成13・9	演劇出版社
歌舞伎の定着 [平成13・7大阪松竹座]	劇評	森西真弓		演劇界	平成13・9	演劇出版社
平家女護嶋	現代語訳	工藤慶三郎		『近松時代物現代語訳2 関八州馬ほか』		平成13年11月 北の街社
猿之助芸話 俊寛	芸談	《3》市川猿之助		おもだか	' 01	平成14年3月 おもだか会 平成13年7月歌舞伎座
「十六夜清心」の三変化 [平成14・3歌舞伎座]	劇評	水落潔		演劇界	平成14・5	演劇出版社
「可能性」をめぐる者たちの慟哭 [平成14・5NHKホール]	劇評	桂木嶺		演劇界	平成14・8	演劇出版社
浪に彩られる生死三態	随筆	利根川裕		演劇界	平成14・8	演劇出版社
橋之助初役の俊寛 [平成14・6国立劇場]	劇評	中村桂子		演劇界	平成14・8	演劇出版社
鬼界ヶ島に鬼はなく 俊寛	鑑賞	《2》中村勘太郎		『歌舞伎の名セリフ粋で鯨背なニッポン語』		平成14年8月 光文社 カッパブックス
再演された「新世紀累化粧鏡」 [平成15・4名古屋御園座]	劇評	大岩精二		演劇界	平成15・6	演劇出版社
高潔な俊寛 [平成15・6地方公演]	劇評	坂東亜矢子		演劇界	平成15・8	演劇出版社
大顔合せの「俊寛」 [平成15・9歌舞伎座]	劇評	水落潔		演劇界	平成15・11	演劇出版社
江戸月替役者評判記 歌舞伎四百年下半期団菊百年目の末っ方 [平成15・9歌舞伎座]	劇評	富士務		歌舞伎 研究と批評	33	平成16年8月 歌舞伎学会
『平家女護島 俊寛』	鑑賞	樽屋壽助		『大向うと行く平成歌舞伎見物』		平成16年1月 PHP研究所 PHPエル新書69
「平家女護島」の俊寛	型	渡辺保		『歌舞伎 型の魅力』		平成16年8月 角川書店
出が魅力的な源氏店 [平成16・7大阪松竹座]	劇評	廓正子		演劇界	平成16・9	演劇出版社
平家女護島	解説	金森和子		『すぐわかる歌舞伎の見どころ』		平成16年9月 東京美術
父の代役で『俊寛』を演じた日 昭和六十三年一月九日	記録	《5》中村勘九郎		『勘九郎日記「か」の字』		平成16年11月 集英社
硫黄島で『俊寛』を演じた日 平成八年五月二十九日	記録			『勘九郎日記「か」の字』		平成16年11月 集英社
父と子	随筆	小松成美		『さらば勘九郎十八代目中村勘三郎襲名』		平成17年3月 幻冬舎 中村勘三郎最後の舞台（昭和63年1月歌舞伎座）について

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・著名	号数	備考
様々な魅力を見せた襲名 [平成17・3歌舞伎座]	鑑賞	水落潔		演劇界	平成17・5	演劇出版社
勘三郎の第一歩 [平成17・3歌舞伎座]	劇評	上村以和於		演劇界	平成17・5	演劇出版社
近松が描く俊寛『平家女護島』	鑑賞	小野幸恵		『幸四郎と観る歌舞伎』		平成17年6月 音楽之友社
おもしろうて、哀れで、だてで、殊勝で、かわい い恋 [俊寛]	鑑賞	葛西聖司		『ことばの切っ先 心にせまる セリフ』		平成18年4月 小学館
俊寛／瀬尾太郎兼康	解説	古井戸秀夫		『歌舞伎登場人物事典』		平成18年5月 白水社 古井戸秀夫／編 河竹登志夫／監修
東屋／丹左衛門尉基康／丹波少将成経／千鳥／難 波次郎経康／平判官康頼	解説	伊藤りさ		『歌舞伎登場人物事典』		平成18年5月 白水社 古井戸秀夫／編 河竹登志夫／監修
たっぷりと「京鹿子娘道成寺」 [平成18・12京都南座]	劇評	廓正子		演劇界	平成19・2	演劇出版社
それぞれの初春 [平成19・1歌舞伎座]	劇評	上村以和於		演劇界	平成19・3	演劇出版社
若い俊寛にふさわしい幕切れ [平成19・7地方公演]	劇評	中村桂子		演劇界	平成19・10	演劇出版社
資料展示室	鑑賞	新藤茂／構成・解説		国立劇場第二五五回歌舞伎公 演解説書	平成19・10	日本芸術文化振興会
思い出の舞台	鑑賞			国立劇場第二五五回歌舞伎公 演解説書	平成19・10	日本芸術文化振興会
補綴のことば 十月公演の二作品	演出	国立劇場文芸課		国立劇場第二五五回歌舞伎公 演解説書	平成19・10	日本芸術文化振興会
「残された俊寛」から「残る」俊寛へ 近松の創った人物像	解説	原道生		国立劇場第二五五回歌舞伎公 演解説書	平成19・10	日本芸術文化振興会
歌舞伎豆事典〈廻り舞台〉	解説	金子健		国立劇場第二五五回歌舞伎公 演解説書	平成19・10	日本芸術文化振興会
勘三郎四変化 [平成19・10新橋演舞場]	劇評	上村以和於		演劇界	平成19・12	演劇出版社
古典と復活狂言の二本立て [平成19・10国立劇場]	劇評	小玉祥子		演劇界	平成19・12	演劇出版社
二〇〇七年後半の歌舞伎寸評 平成19・10国立劇場]	劇評	佐藤俊一郎		歌舞伎 研究と批評	41	平成20年11月 歌舞伎学会
[平成19・10新橋演舞場]	劇評	佐藤俊一郎		歌舞伎 研究と批評	41	平成20年11月 歌舞伎学会
[平成19・10前進座劇場]	劇評	佐藤俊一郎		歌舞伎 研究と批評	41	平成20年11月 歌舞伎学会
平成歌舞伎のバリエーション 「俊寛」三態 [平成19・10国立劇場] [平成19・10新橋演舞場] [平成19・10前進座劇場]	劇評	大矢芳弘		歌舞伎 研究と批評	41	平成20年11月 歌舞伎学会
知略の達成 [平成20・8国立劇場]	劇評	上村以和於		演劇界	平成20・11	演劇出版社
華やかな初芝居 [平成21・1歌舞伎座]	劇評	水落潔		演劇界	平成21・3	演劇出版社

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・著名	号数	備考
『源平盛衰記』における俊寛の最期〈述懐〉に見る滅罪と救済の構想	研究	小助川元太		軍記と語り物	45	平成21年3月 軍記・語り物研究会
ドラマの全体像を求めて 前進座の古典演目	鑑賞	青木繁		歌舞伎 研究と批評	42	平成21年4月 歌舞伎学会
中村屋ゆかりの狂言 〔平成21・4香川金丸座〕	劇評	小玉祥子		演劇界	平成21・6	演劇出版社
俊寛／平家女護島	解説	渥美清太郎		『系統別 歌舞伎戯曲解題 中』		平成22年3月 日本芸術文化振興会 ※歌舞伎資料選書・11
故人の多彩な芸を偲ぶ 〔平成22・2歌舞伎座〕	劇評	水落潔		演劇界	平成22・4	演劇出版社
ありがとう歌舞伎座 「歌舞伎座さよなら公演」を振り返る 〔平成21・1歌舞伎座〕 〔平成22・2歌舞伎座〕	劇評	大矢芳弘		歌舞伎 研究と批評	46	平成23年5月 歌舞伎学会
「沼津」と「俊寛」 〔平成22・9新橋演舞場〕	劇評	水落潔		演劇界	平成22・11	演劇出版社
平成二十二年下半期の歌舞伎 九月 充実の吉右衛門、仁左衛門 〔平成22・9新橋演舞場〕	劇評	富士務		歌舞伎 研究と批評	47	平成24年5月 歌舞伎学会
錦絵のような光景 〔平成22・10大阪大阪平成中村座〕	劇評	亀岡典子		演劇界	平成22・12	演劇出版社
平成二十二年下半期の関西公演評 歌舞伎・文楽 〔平成22・10大阪大阪平成中村座〕	劇評	青木繁		歌舞伎 研究と批評	47	平成24年5月 歌舞伎学会
平家女護島	解説	渥美清太郎		『系統別 歌舞伎戯曲解題 下 の一』		平成23年1月 日本芸術文化振興会 ※歌舞伎資料選書・11
団七を盛り立てる結束力 〔平成23・3福岡博多座〕	劇評	亀岡典子		演劇界	平成23・5	演劇出版社
白川六勝寺と俊寛僧都	鑑賞	山崎泰正		『清盛・義経ゆかりの入道伝 承地 京の伝承を歩く源平争乱 Ⅱ』		平成23年11月 ふたば書房
重厚と渾身、清冽の秀山祭 〔平成24・3京都南座〕	劇評	亀岡典子		演劇界	平成24・5	演劇出版社
廻り舞台	解説	岩井眞實		『〈最新〉歌舞伎大事典』		平成24年7月 柏書房 神山彰・丸茂祐佳・児玉竜一／編集 富澤慶秀・藤田洋／監修
龍神巻	解説	松竹衣裳		『〈最新〉歌舞伎大事典』		平成24年7月 柏書房 神山彰・丸茂祐佳・児玉竜一／編集 富澤慶秀・藤田洋／監修
端敵	解説	小玉祥子		『〈最新〉歌舞伎大事典』		平成24年7月 柏書房 神山彰・丸茂祐佳・児玉竜一／編集 富澤慶秀・藤田洋／監修

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・著名	号数	備考
平家女護島	解説	伊藤普之		『〈最新〉歌舞伎大事典』		平成24年7月 柏書房 神山彰・丸茂祐佳・児玉竜一／編集 富澤慶秀・藤田洋／監修
心情の変化を明解に [平成24・6国立劇場]	劇評	小玉祥子		演劇界	平成24・8	演劇出版社
「定点」と「巡演」の劇空間 [平成24・6地方公演]	劇評	畑律江		演劇界	平成24・8	演劇出版社
「塩原多助」と二つの時代 歯を喰いしばる人生 俊寛の「発見」 [平成24・6地方公演]	劇評	神山彰		歌舞伎 研究と批評	51	平成26年3月 歌舞伎学会
柔と剛を演じ分けた勘九郎 [平成25・2福岡博多座]	劇評	亀岡典子		演劇界	平成25・4	演劇出版社
「俊寛」「喜撰」、そして「助六」 [平成25・6歌舞伎座]	劇評	渡辺保		演劇界	平成25・8	演劇出版社
三か月目の豪華公演 [平成25・6歌舞伎座]	劇評	水落潔		演劇界	平成25・8	演劇出版社
海老蔵の模索 [平成25・6歌舞伎座]	劇評	犬丸治		演劇界	平成25・8	演劇出版社
歌舞伎座の新装開場 平成二十五年上半期の歌舞伎 状況 六月興行の日常性 団十郎のいない〈助六〉 [平成25・6歌舞伎座]	劇評	村上湛		歌舞伎 研究と批評	52	平成26年9月 歌舞伎学会
四代目の個性を發揮 [平成26・10新橋演舞場]	劇評	小玉祥子		演劇界	平成26・12	演劇出版社
吉右衛門の芸を堪能 [平成27・10名古屋日本特殊陶業市民会館]	劇評	安住恭子		演劇界	平成27・12	演劇出版社
大阪城と中村座 [平成27・10大阪大阪平成中村座]	劇評	宮辻政夫		演劇界	平成28・1	演劇出版社
「俊寛」の型の意味するもの	鑑賞	武智鉄二／著 山本吉之助／編		『武智鉄二 歌舞伎素人講釈』		平成29年7月 アルファベータブック
白鸚の深化、幸四郎の矜持 [平成30・6福岡博多座]	劇評	亀岡典子		演劇界	平成30・8	演劇出版社
昼夜で初代以来の当り役 [平成30・9歌舞伎座]	劇評	小玉祥子		演劇界	平成30・11	演劇出版社
芝翫の清盛を中心に [平成30・10国立劇場]	劇評	児玉竜一		演劇界	平成30・12	演劇出版社
「俊寛」から「鏡獅子」へ [平成31・1新橋演舞場]	劇評	犬丸治		演劇界	平成31・3	演劇出版社